



本庄市長 吉田 信 解

# 年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には希望に満ちた平成二十二年の新春を、ご健勝にてお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、アメリカ大陸からの二つの嵐に振り回された一年でございました。米国に端を発した世界同時不況と、メキシコ発の新型インフルエンザです。

不況対策では、昨年の年明け早々、職を失い生活に困ってしまった人たちの救済のため、緊急生活相談窓口を開設し、対応にあたりました。

市内小売業者の活性化対策では、定額給付金の給付に合わせて本庄商工会議所・児玉商工会と協力し、本庄元気チケットを総額三億円発売しました。このチケットの八十三・三％が市内の小売店で使用され、市内経済の景気刺激となりました。

また、市内中小企業救済のため、本市の中小企業緊急融資制度の限度額を六百万円にまで拡充し、十二月十八日現在で市内の百二社がこの制度を利用し、二億九千五百四十万円が貸し出されました。

新型インフルエンザの対策では、当市での流行に備え「新型インフルエンザ対応行動計画」を作成して対応にあたり、また、小学校三年生までの子ども、妊婦や赤ちゃんをもつ母親が安心して暮らせるよう、予防接種費用の一部補助を行っています。



その一方、本市の発展にとって明るい話題もありました。

Jリーグの初代チエアマンで、昨年度早稲田大学特命教授に就任された川淵三郎さんが、本市の「市民一人一スポーツ」の理念に共感し、全面的に協力してくれることになり、「川淵三郎塾」が開講されました。今後の本市の生涯スポーツの発展にとって誠に意義深い一年となりました。

また、まちおこしや名物づくりの観点から取り組んできた「つみっこ」が、秩父市で開催された埼玉B級ご当地グルメ王決定戦において総合二位、二百円部門で優勝を果たしました。この新しい名物は、参戦された多くの関係者の不断の努力が花開いた結果です。

そして、最も大きなニュースは、ホームセンター業界トップクラスで年間売上高三千四百六十八億円、埼玉県に立地すれば県内企業第三位となる㈱カインズの「本社」が平成二十四年に本庄早稲田駅前に移転することが決定したことです。これは本庄市が埼玉県など関係機関と協力して誘致に取り組んできた、大きな成果です。

これらの実現は、合併からの四年間市民の皆様と共にコツコツと取り組んできたことが今まさに芽吹いてきたものであります。まだ、小さな芽ですが、これからしっかりと手をかけ、持続可能なまちづくりのため、素晴らしい実（成果）のなる大樹に育てたいと考えております。

市民の皆様、温かく、活力と希望あふれる本庄を創るため、本庄市行政はこの一年も全力で頑張りますので、どうぞより一層のお力をいただきたくお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。